

令和6年度第3回 宮崎県バス利用促進協議会資料

県民アンケートの分析結果について

令和6年（2024年）10月21日（月）

○はじめに バスの利用者数を増やすには

(1)「現在の利用者」によりバスを利用してもらう

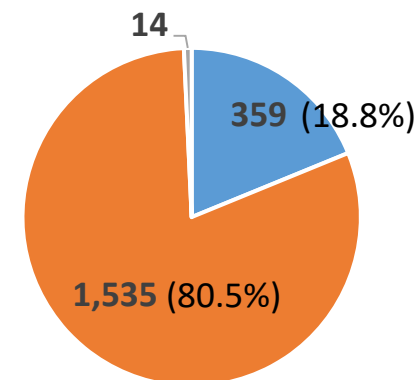


【問】よりバスを利用するには

- ① 運行本数が増えたら (225)
- ② 停留所が使いやすくなったら (98)
- ③ 運賃が安くなったら (92)
- ④ ノンステップバスが導入されたら (65)
- ⑤ 時間帯が変更されたら (48)

※県民アンケート【Ⅱ-問4】

【問】現在バスを利用しているか(n=1,908)



■ 利用している ■ 利用していない ■ 無回答

※県民アンケート【Ⅰ-問8】

(2)「非利用者」にバスを利用してもらう



【問】どうすればバスを利用するようになるか

- ① 自分で運転ができなくなったら (1,147)
- ② 運行本数が増えたら (418)
- ③ 家族等の送迎がなくなったら (413)
- ④ 運賃が安くなったら (234)
- ⑤ お得なクーポンがあったら (166)

※県民アンケート【Ⅲ-問3】

- 運行本数の増、運賃の値下げなどは、現在の運転士不足や物価高の中では容易ではない。
- 非利用者の多くは、自家用車を使えない状況にならなければ、バスを利用しない。



圏域ごとのアンケート結果の特性から、ターゲットや取組を設定できないか

(1) 自家用車に依存した生活実態

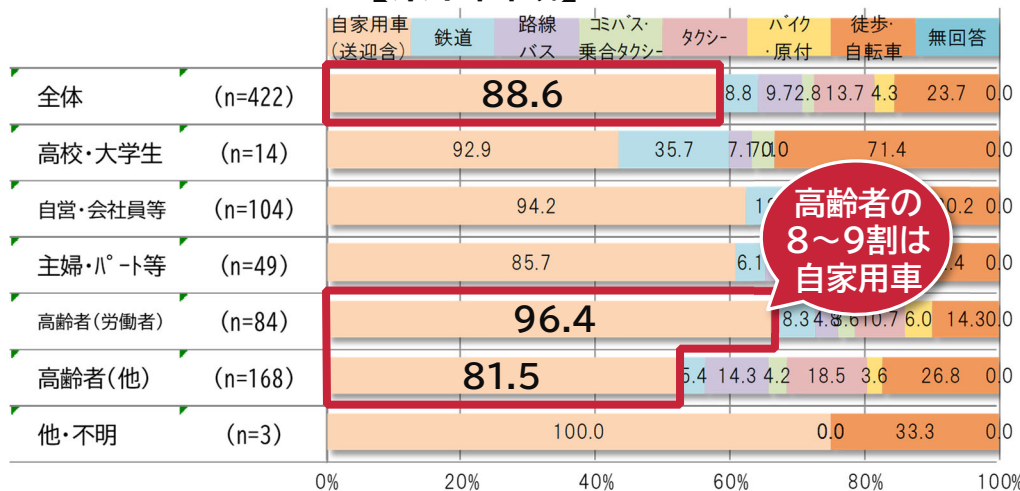
【問: 普段の移動手段について】

※県民アンケート【I-問1】

- 各圏域ともに**自家用車の割合が約9割**となっており、高い自家用車依存がうかがえる。
- 近年高齢者の交通事故増加等が問題視されている**高齢ドライバーの割合も高くなっている**。

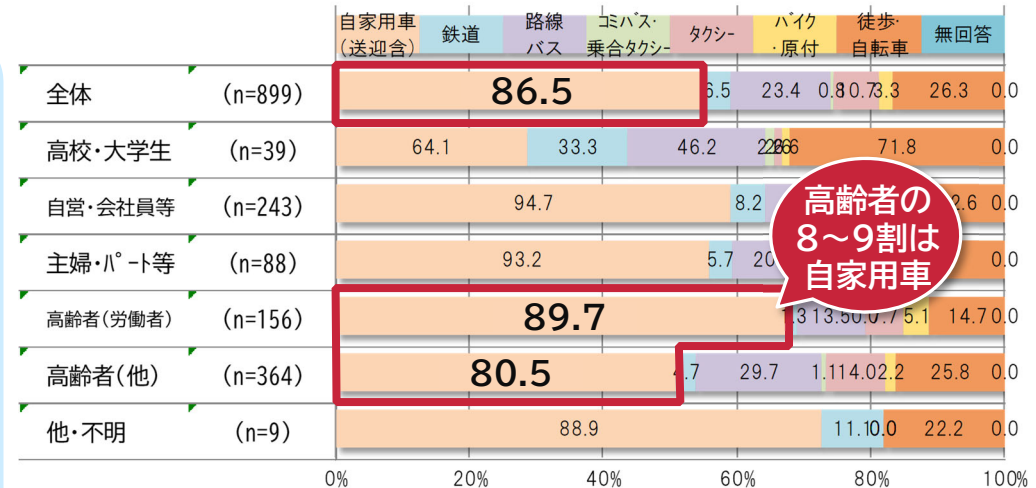
➡ **自家用車からバスへの転換を促すために免許返納促進等を含めた利用促進が必要**

【県北圏域】



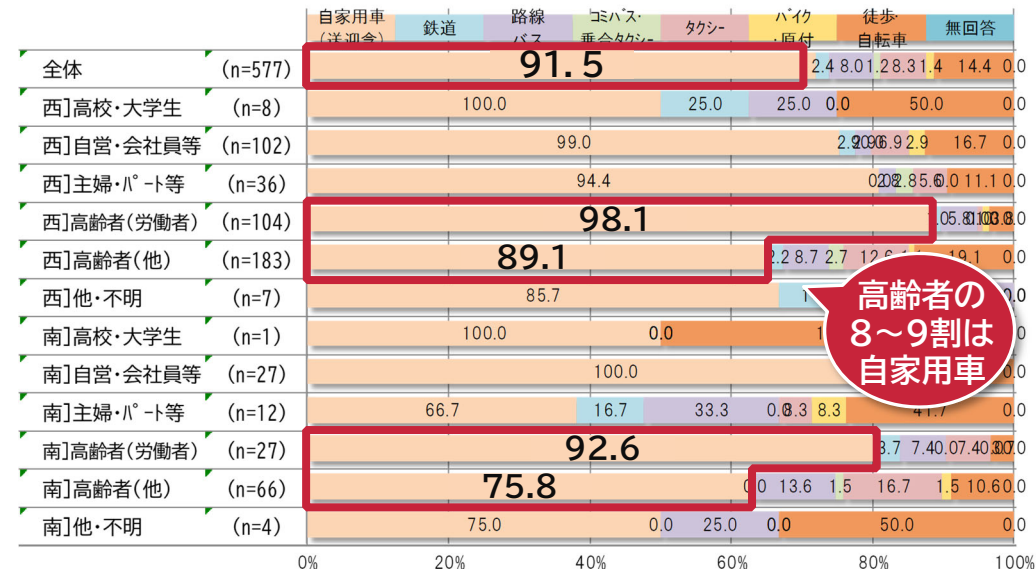
高齢者の8~9割は自家用車

【県央圏域】



高齢者の8~9割は自家用車

【県西・県南圏域】



高齢者の8~9割は自家用車

(2) バスを利用したことがない県民の存在

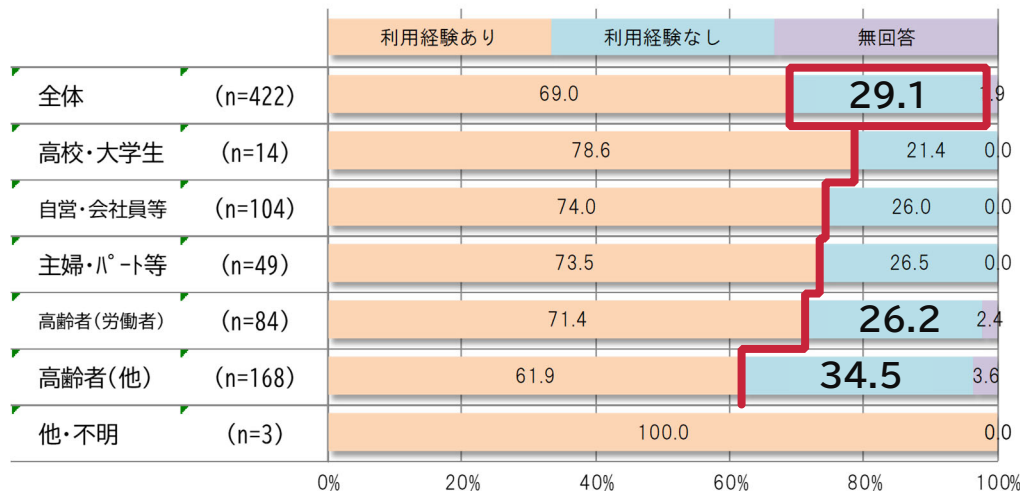
【問:バスの利用経験について】

※県民アンケート【I-問3-1】

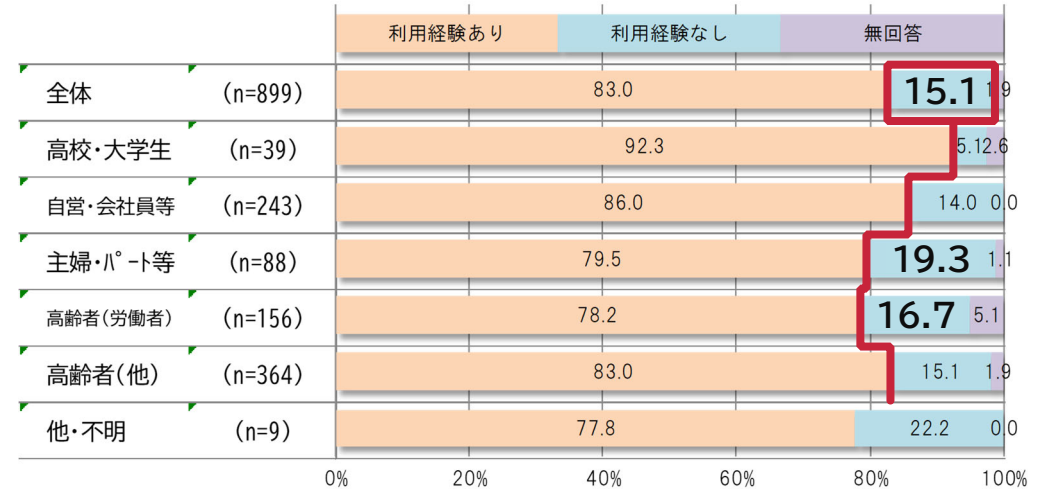
- これまで1度も利用経験がない方の割合は、**県央で約15%、県北で約29%、県西・県南で約42%**と地域ごとに差異がある。
- 県西・県南では特に高齢者の割合が高い。

➡ **適度に賢くバスを使ってもらうために利用するきっかけづくりの提供が必要**

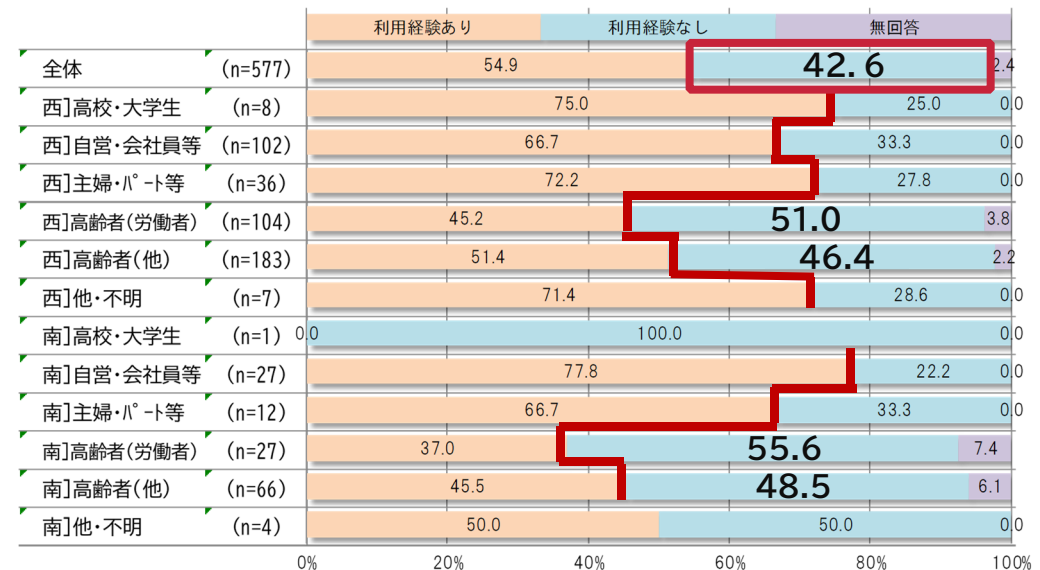
【県北圏域】



【県央圏域】



【県西・県南圏域】



(3) 買い物・通院等によるバス利用

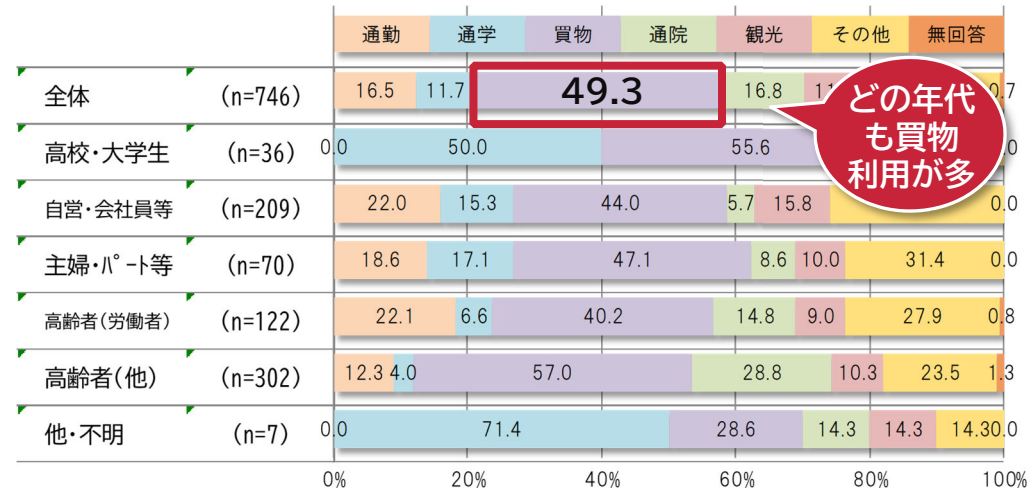
【問:バスの利用目的(利用経験がある方を対象)について】

※県民アンケート【Ⅱ-問1-1】

- 利用経験がある方のバスの利用目的については、各圏域とも**買い物の割合が高**くなっている。
- 次いで通院が高くなっており、学生等では通学利用も見受けられる。

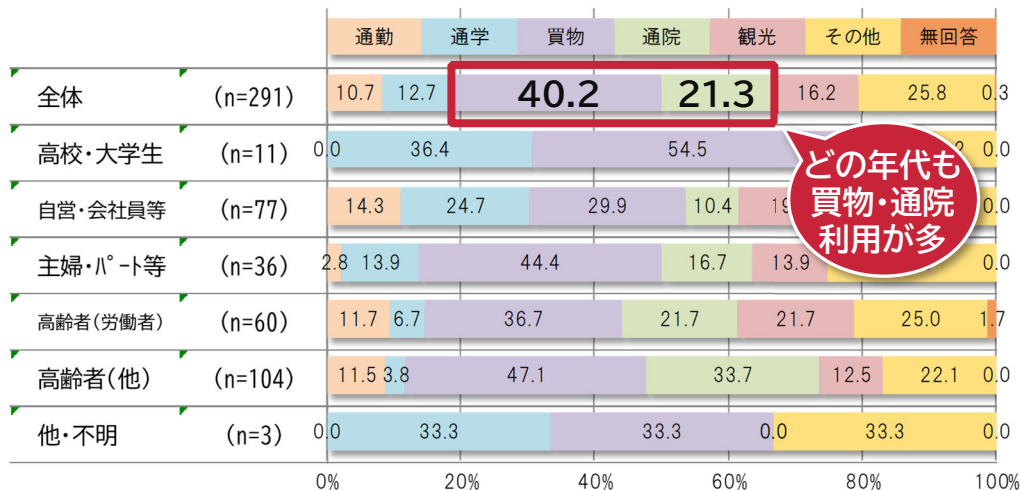
➡ **施設連携によるお出かけ企画やインセンティブの付与等による利用促進が必要**

【県央圏域】



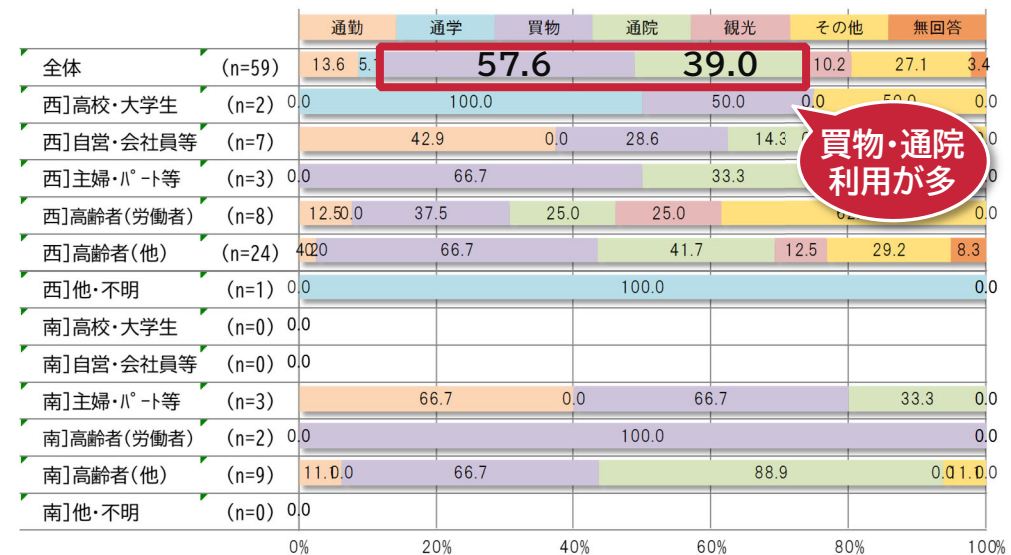
どの年代も買物利用が多

【県北圏域】



どの年代も買物・通院利用が多

【県西・県南圏域】



買物・通院利用が多

(4) 低いバスの利用状況

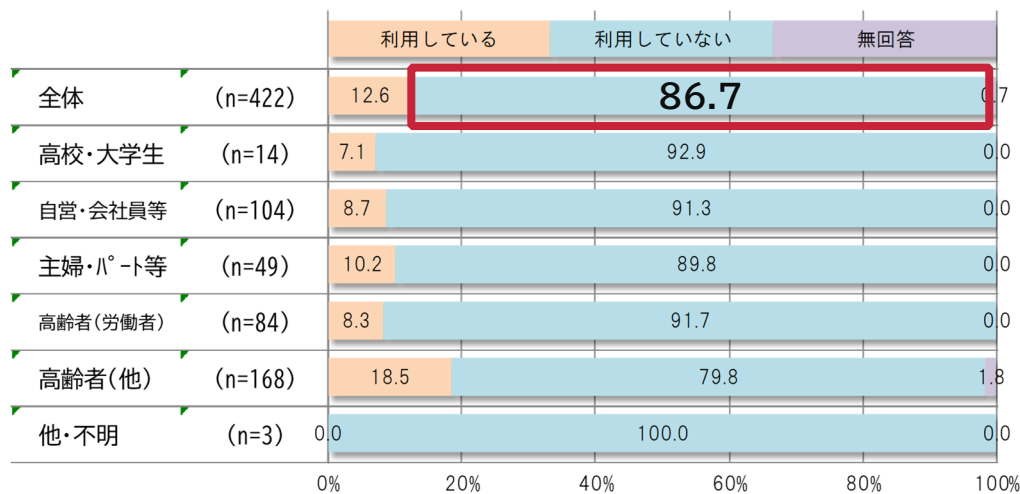
【問:現在のバスの利用状況について】

※県民アンケート【I-問8】

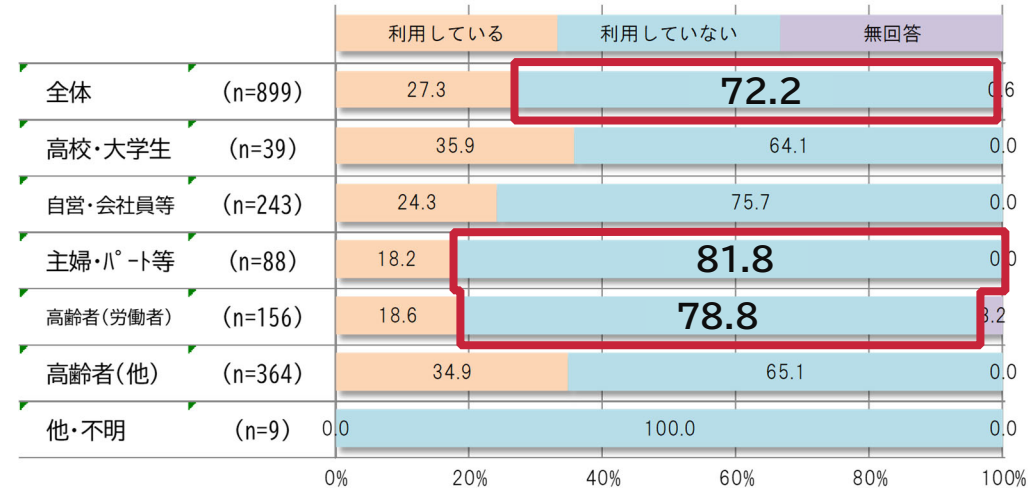
- 現在、県央圏域では全体の7割程度、県北及び県西・県南圏域では8割強の方が利用していないと回答。
- 県央圏域では、主婦等・高齢者の利用率が低い状況である。

➡ **主婦等・高齢者を対象にバス利用の目的を創出した利用促進を図ることが必要**

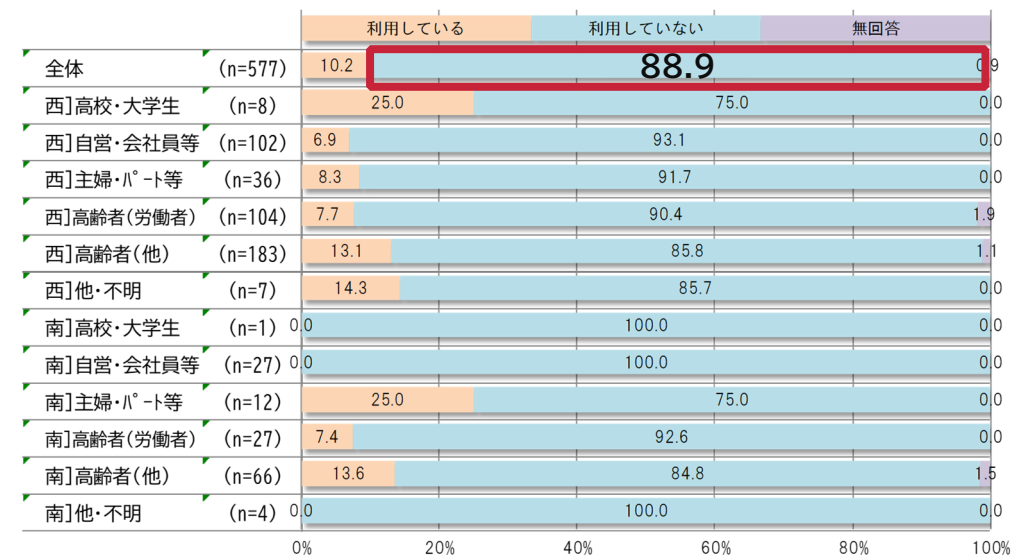
【県北圏域】



【県央圏域】



【県西・県南圏域】



(5) 乗り方教室の低い認知度

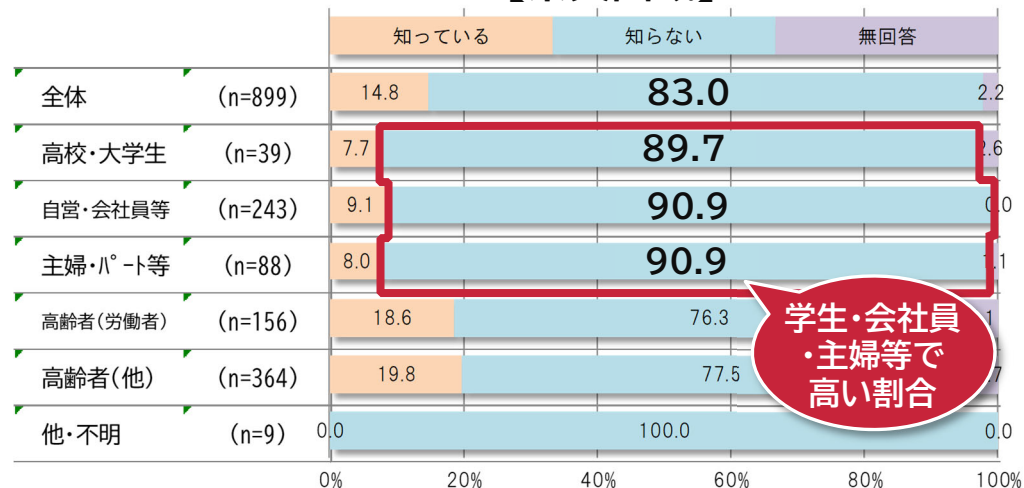
【問:乗り方教室の認知度について】

※県民アンケート【I-問4-1】

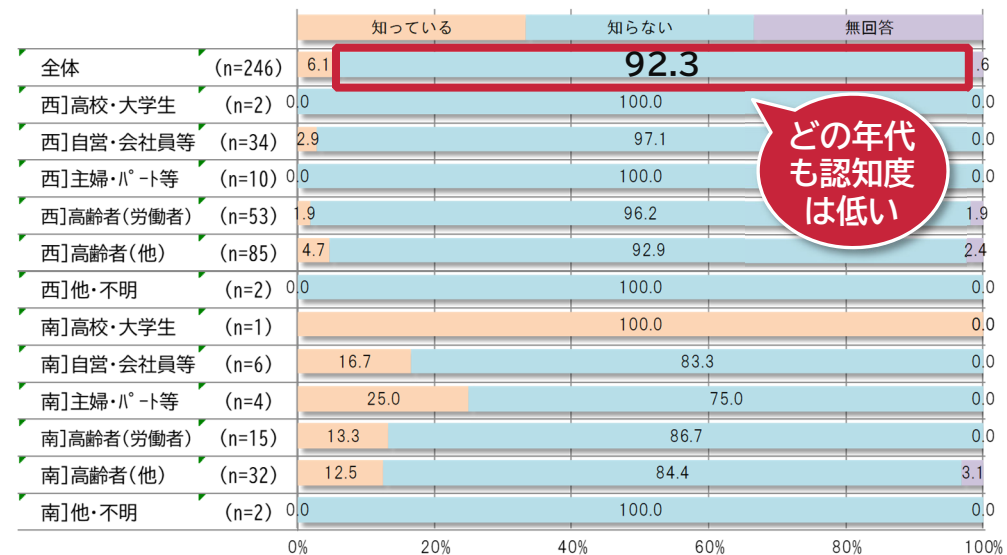
- 各圏域とも、**乗り方教室を知らない方が全体の8割~9割**存在している。
- 特に県央圏域では、学生や会社員・主婦等で割合が高く、バスの利用方法を知らない方も存在していることが予想される。

➡ **バスの乗り方教室だけでなく人が集まる他のイベントとあわせた利用促進が必要**

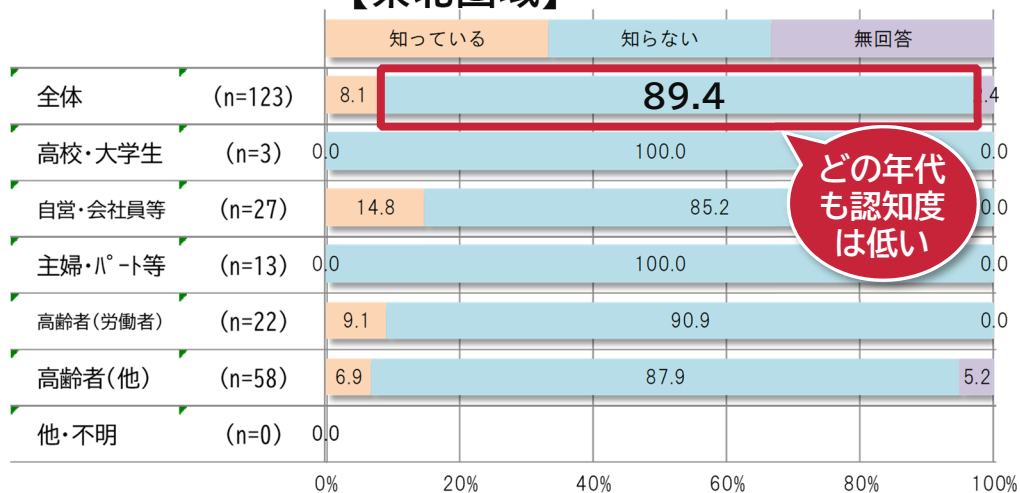
【県央圏域】



【県西・県南圏域】



【県北圏域】



(6) バスロケーションシステムの低い認知度

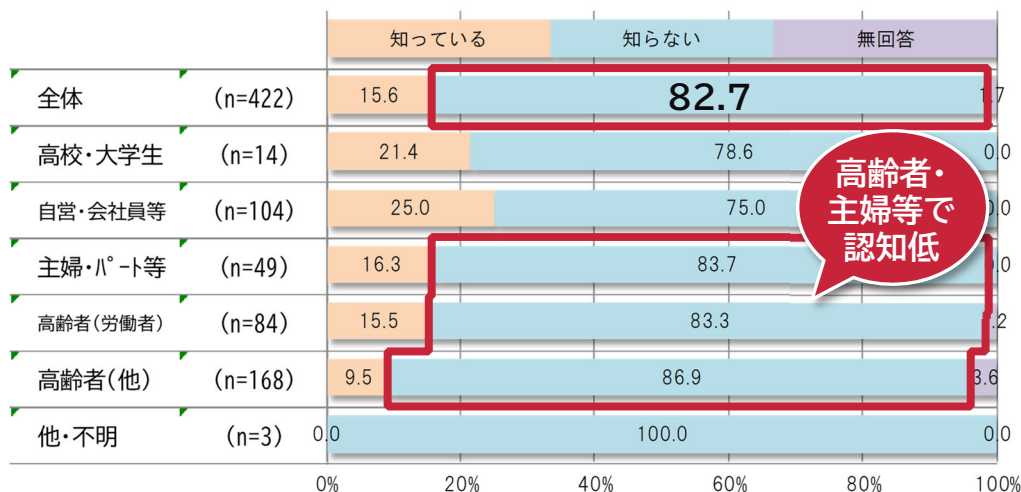
【問:バスロケーションシステムの認知度について】

※県民アンケート【I-問5】

- 各圏域とも、**バスロケーションシステムを知らない方が全体の7割～8割程度**存在している。
- 特に県央・県北圏域では、**高齢者や主婦等で割合が高く、バスの利用方法を知らない方も存在していることが予想される。**

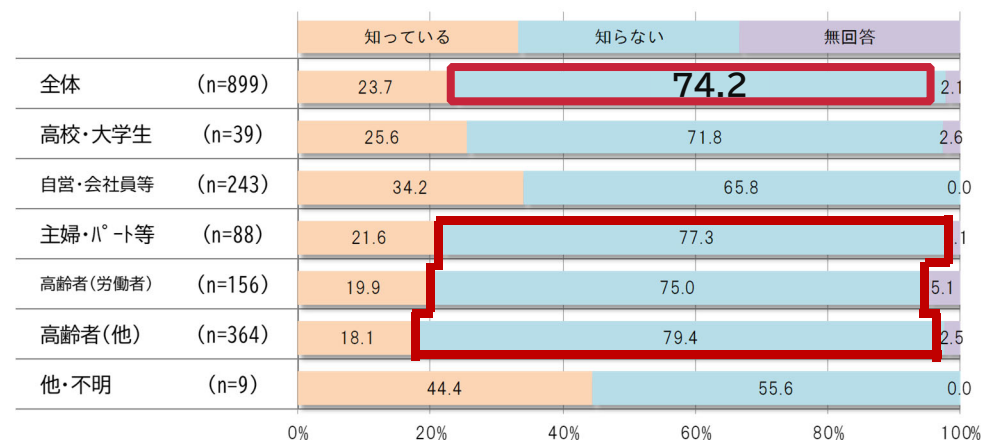
➡ **経路検索や時刻表、バスの接近情報がわかる基礎情報ツールのPR・周知が必要**

【県北圏域】

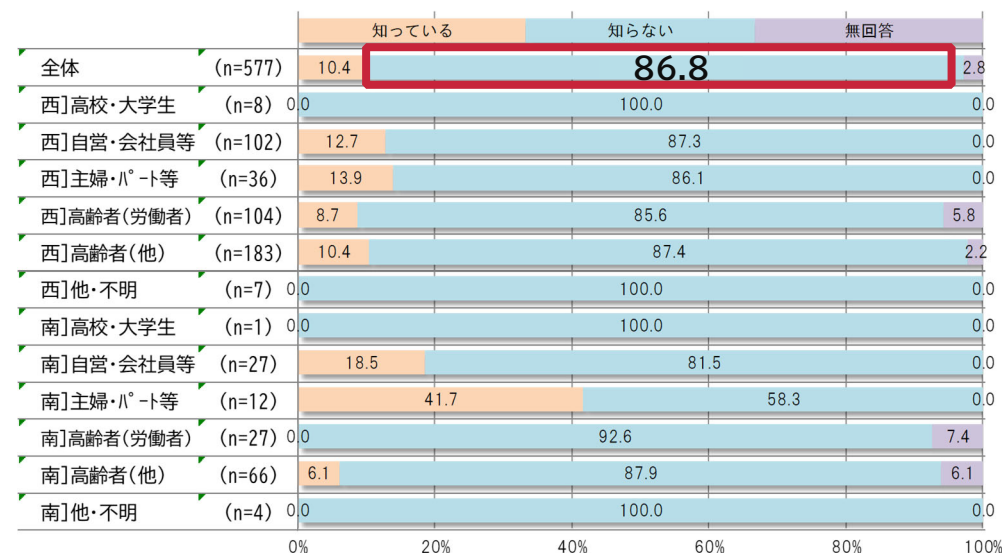


高齢者・主婦等で認知低

【県央圏域】



【県西・県南圏域】



(7) モバイル乗車券の低い認知度

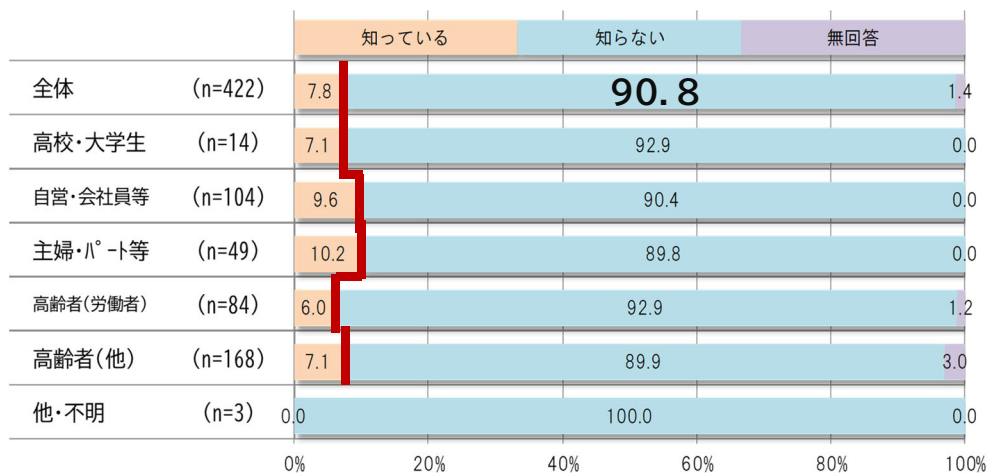
【問:モバイル乗車券の認知度について】

※県民アンケート【I-問6】

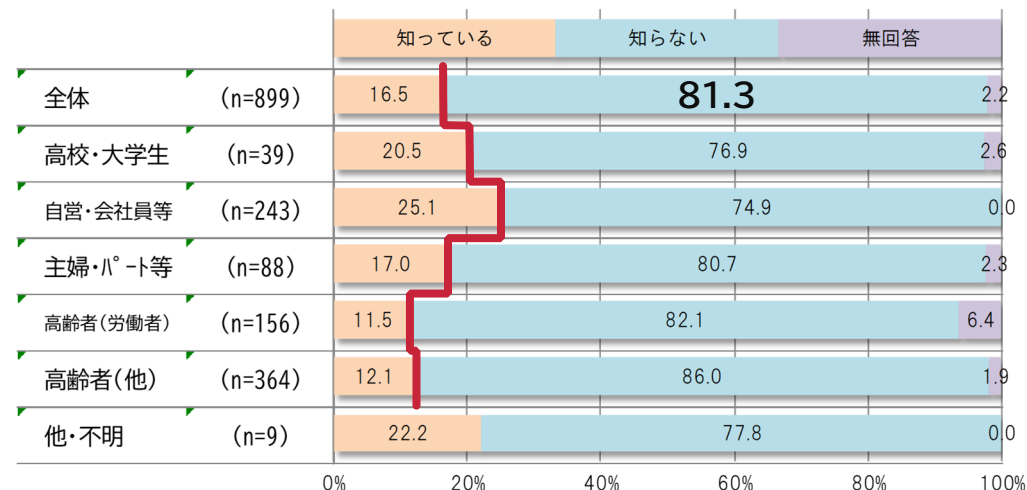
- 「1日乗り放題乗車券」「ホリデーパス」などのモバイル乗車券の認知度については、各圏域ともに、**知らない割合が全体の8割以上**となっており、**県北圏域では9割を超えている**。

➡ **利用するうえでお得となる乗車券 (my route含む) の周知・PRの強化が必要**

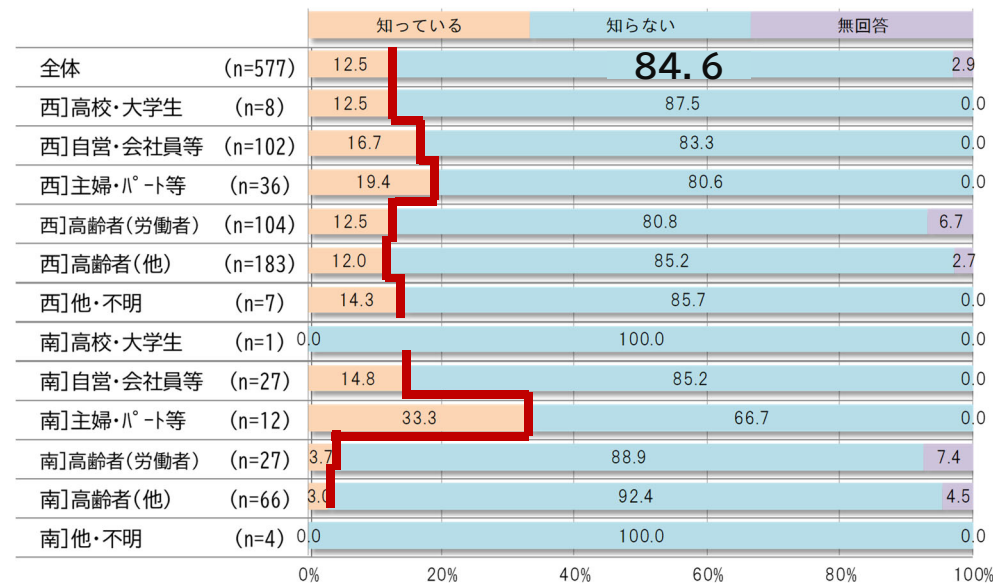
【県北圏域】



【県央圏域】



【県西・県南圏域】



(8) 時刻表のわかりづらさ

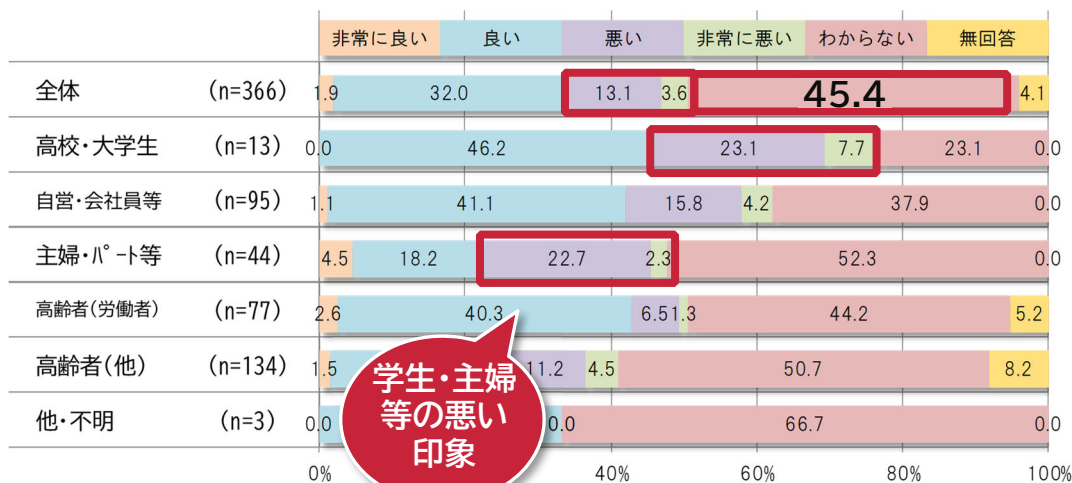
【問:時刻表のわかりやすさに関するイメージについて】

※県民アンケート【Ⅲ-問2-⑤】

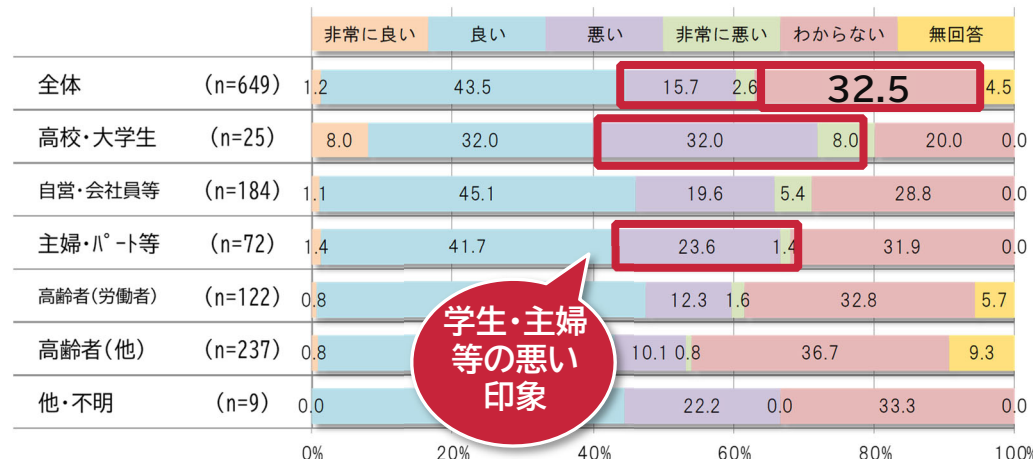
- バス非利用者において、各圏域ともに全体の1割程度の方がイメージが悪いと回答。
- また、各圏域ともに「わからない」の回答が多く、移動手段としてバスへの関心が低いことが想定される。

➡ バス利用の前提となる運行情報に関するわかりやすい情報案内・周知が必要

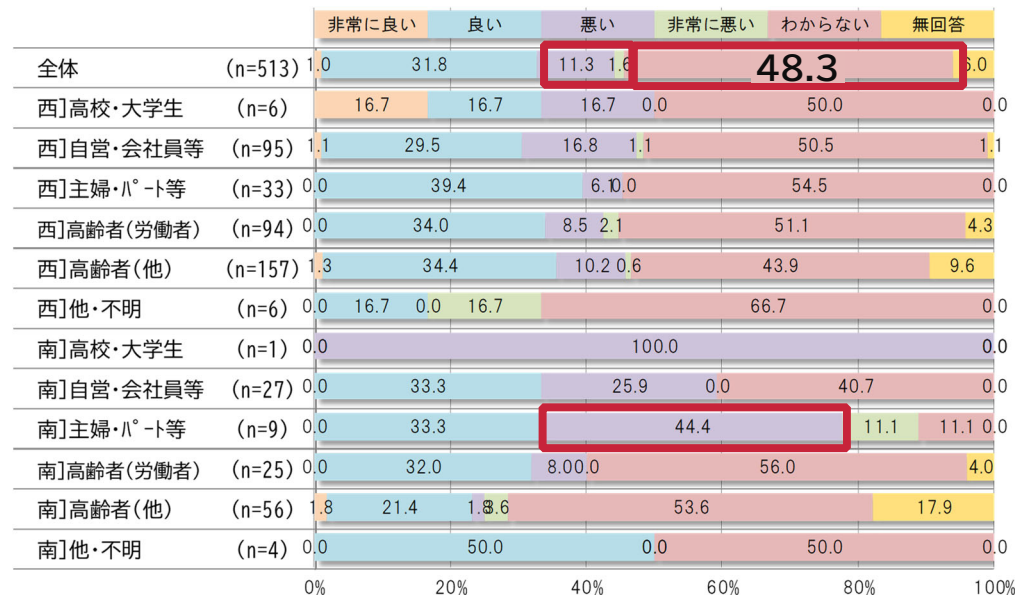
【県北圏域】



【県央圏域】



【県西・県南圏域】



(9) 路線図のわかりづらさ

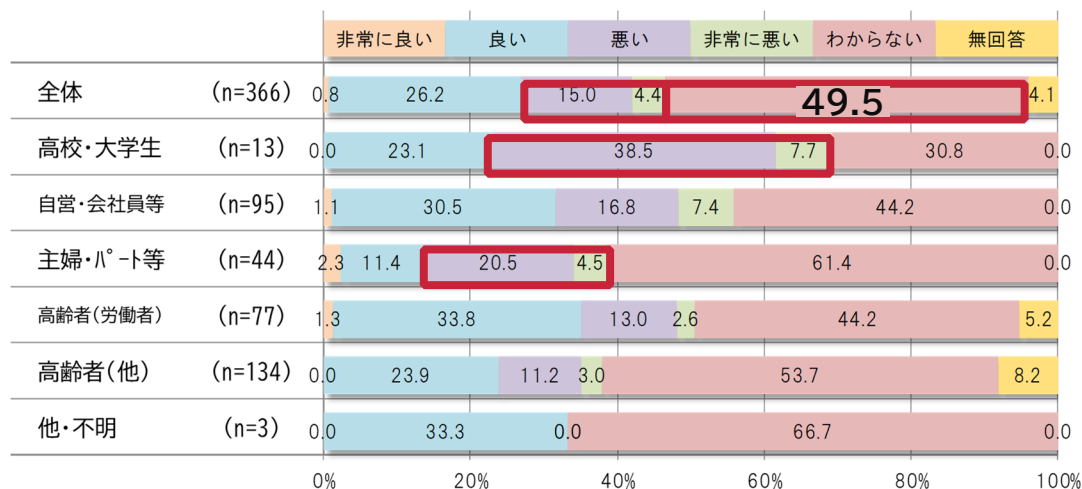
【問:路線図のわかりやすさに関するイメージについて】

※県民アンケート【Ⅲ-問2-⑥】

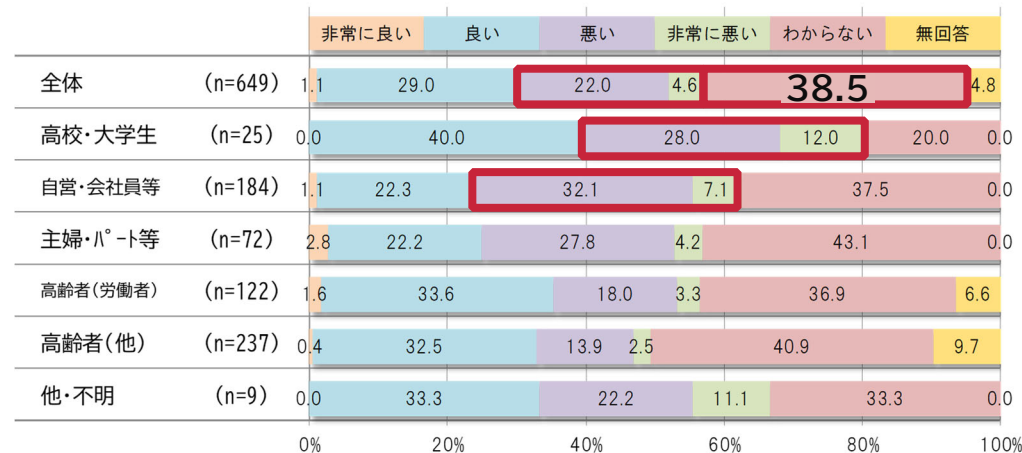
- バス非利用者において、各圏域ともに全体の1割～2割程度の方がイメージが悪いと回答。
- また、各圏域ともに「わからない」の回答が多く、移動手段としてバスへの関心が低いことが想定される。

➡ **バス利用者の視点にあわせた路線情報等
を示すわかりやすい情報案内が必要**

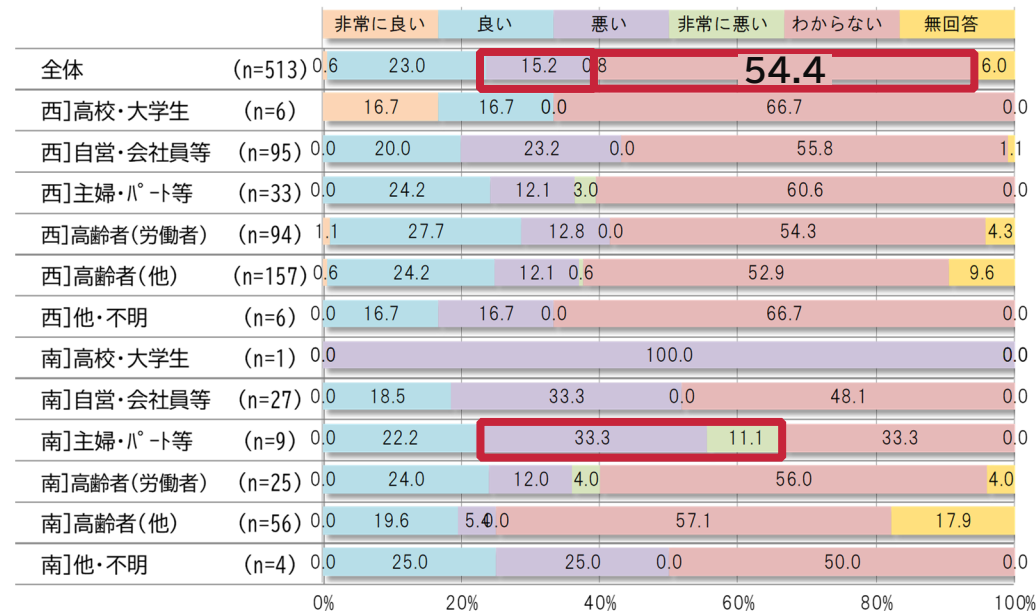
【県北圏域】



【県央圏域】



【県西・県南圏域】



【アンケート結果のまとめ】

- 全体を通してみると、圏域ごとの大きな特性はあまりみられなかったものの、一部項目では、回答者の属性ごとの特性がみられた。
- また、「バスの利用経験」、「現在のバス利用」とでは、県央圏域で利用者数が多く、県北、県西・県南で少なくなっている。



【取組の方向性】(共通)

1 バスを1度でも使ってもらうためのきっかけづくり

- 現在バスを利用していない方の割合が高く、バスを1度も利用した経験がない方も存在（高齢になるほど利用したことがない割合が高くなる）
- 時刻表や路線図などについて、「知らない」「わからない」という回答が多く、移動手段としてバスへの関心が低い可能性

2 買い物行動にあわせたバスの利用促進

- バスを1度でも利用したことがある方について、利用の目的では「買い物」が多い
- 「my route」を含むお得なモバイル乗車券の認知度が低い

3 わかりやすい情報発信・県民の目に触れる機会を増やすPR

- バスを利用していない方において、「時刻表及び路線図のわかりやすさに関するイメージ」が悪い割合が比較的高い
- バスの接近情報が分かるバスロケーションシステムの認知度が低い